



# 2022年3月期決算報告

2022年5月12日

株式会社 **ニコン**

1. 2022年3月期決算報告

2. 2023年3月期 通期見通し

**売上収益**  
**5,396億円**

- **前年比： 884億円増** (前回予想比 104億円減)
  - 全セグメントで増収
  - 映像事業は、ラインアップを拡充したミラーレスカメラ・交換レンズ中心に販売額増加
  - 精機事業は、FPD露光装置の販売台数増やサービス収入の増加により増収
  - コンポーネント事業は、半導体産業関連のコンポーネントやロボット向けエンコーダ等の販売額増加
  - ヘルスケア事業や産業機器・その他は、コロナ禍からの市場回復による強い需要を背景に増収

**営業利益**  
**499億円**

- **前年比： 1,061億円増** (前回予想比 29億円増)
  - 全セグメントで大幅増益かつ黒字化達成
  - 前期に実施した構造改革や固定資産減損による損益分岐点の低下により収益性改善
  - 前期計上の一時費用の剥落に加え、遊休地等の売却益の計上、為替影響等もあり、大幅な増益

**当期利益**  
(親会社の所有者に帰属)  
**426億円**

- **前年比： 770億円増** (前回予想比 36億円増)

注：2021年3月期に、構造改革費用、固定資産減損損失や棚卸廃棄・評価損として、一時費用556億円を計上

注：本資料で使用している数値は億円未満切り捨て。前回予想とは2022年2月3日発表時点の予想を指す

# 2022年3月期 通期：連結売上収益・損益



単位：億円	21年3月期 実績	前回予想 (2/3)	22年3月期 実績	前年比	前回予想比	20年3月期 実績
売上収益	4,512	5,500	<b>5,396</b>	+884	▲104	5,910
営業利益	▲562	470	<b>499</b>	+1,061	+29	67
営業利益率	▲12.5%	8.5%	9.3%			1.1%
税引前利益	▲453	530	<b>570</b>	+1,023	+40	118
税引前利益率	▲10.0%	9.6%	10.6%			2.0%
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	▲344	390	<b>426</b>	+770	+36	76
当期利益率	▲7.6%	7.1%	7.9%			1.3%
FCF	229	-	<b>309</b>	+80	-	▲48
年間配当	20円	40円	<b>40円</b>	+20円	-	40円
為替：USD	106円	112円	<b>112円</b>	売上収益への影響 (億円)		109円
				+195	+7	
ユーロ	124円	130円	<b>131円</b>	営業利益への影響 (億円)		121円
				+63	+3	

21年3月期比で売上収益・営業利益共に大幅に改善。20年3月期比では売上減少も各利益は大幅に増加

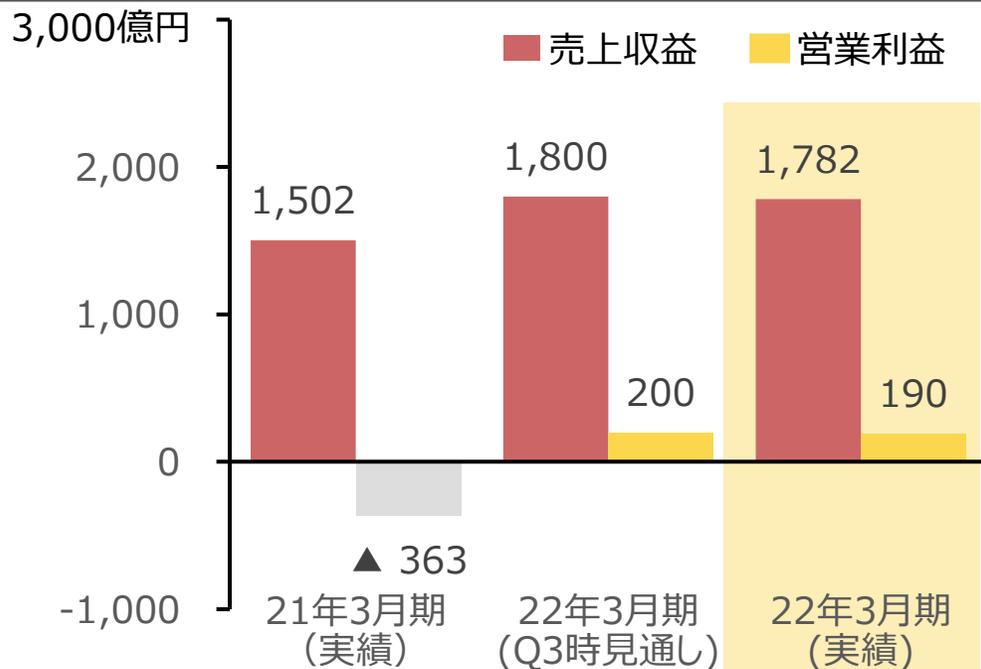
# 2022年3月期 通期：セグメント別業績



単位：億円		21年3月期 実績	前回予想 (2/3)	22年3月期 実績	前年比	前回予想比
映像事業	売上収益	1,502	1,800	<b>1,782</b>	+18.7%	▲1.0%
	営業利益	▲363	200	<b>190</b>	+553億円	▲10億円
精機事業	売上収益	1,847	2,200	<b>2,112</b>	+14.3%	▲4.0%
	営業利益	▲6	255	<b>277</b>	+283億円	+22億円
ヘルスケア事業	売上収益	628	730	<b>732</b>	+16.5%	+0.3%
	営業利益	▲30	35	<b>43</b>	+73億円	+8億円
コンポーネント事業	売上収益	257	420	<b>408</b>	+58.5%	▲2.7%
	営業利益	1	125	<b>127</b>	+126億円	+2億円
産業機器・その他	売上収益	276	350	<b>360</b>	+30.6%	+3.0%
	営業利益	▲12	15	<b>29</b>	+41億円	+14億円
各セグメントに 配賦されない全社損益	営業利益	▲150	▲160	<b>▲169</b>	▲19億円	▲9億円
連結	売上収益	4,512	5,500	<b>5,396</b>	+19.6%	▲1.9%
	営業利益	▲562	470	<b>499</b>	+1,061億円	+29億円

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

# 2022年3月期 通期：映像事業



## ● 売上収益：前年比 280億円増収（前回予想比 18億円減収）

- 半導体など部品不足により、市場全体は低調
- 部品調達制約もあり一眼レフ中心にレンズ交換式カメラの販売台数減少
- プロ・趣味層向けにミラーレスカメラの販売を伸ばす  
フラッグシップモデル「Z 9」や交換レンズは、高評価を得て販売好調に推移
- 為替影響やプロ・趣味層向けモデルシフトの進展により平均販売単価が上昇し、前年比で19%増収

## ● 営業利益：前年比 553億円増益（前回予想比 10億円減益）

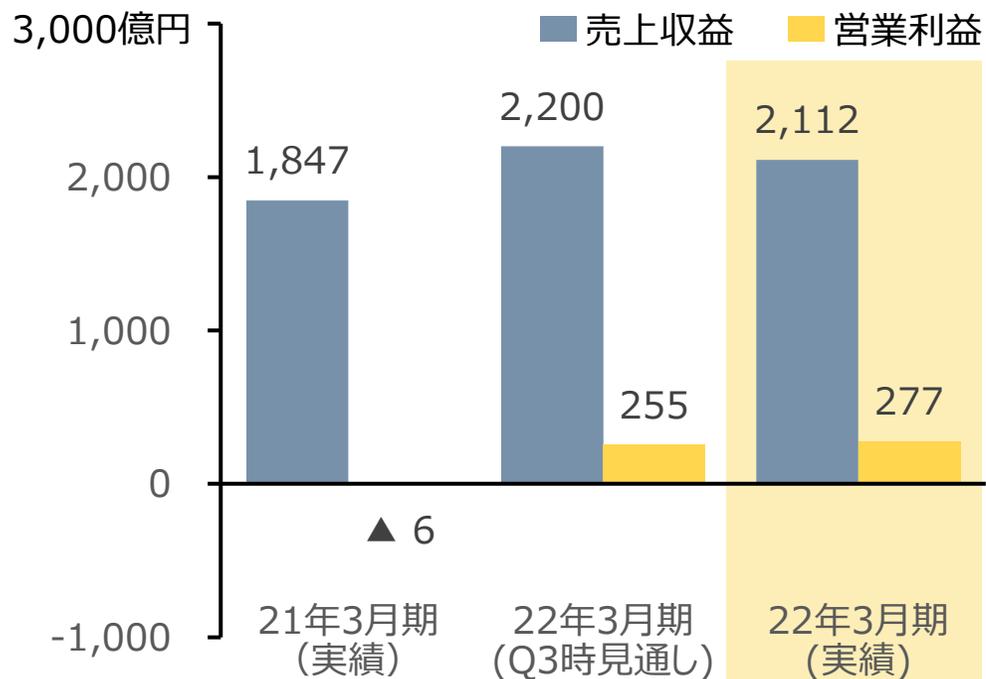
- 構造改革は主要施策の実行を完了
- 構造改革効果に加え、平均販売単価の上昇により、営業利益率は二桁を達成
- 前年の固定資産減損や棚卸廃棄・評価損の一時費用 237億円が剥落し、前年比で大幅増益

レンズ交換式デジタルカメラ (万台)			
市場規模	552	520	512
ニコン	84	70	70
交換レンズ (万本)			
市場規模	911	920	939
ニコン	135	130	127
レンズ一体型デジタルカメラ (万台)			
市場規模	343	285	272
ニコン	26	20	19

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

注：レンズ一体型デジタルカメラは、ボディとレンズが一体となり、交換不可のカメラを指す（ニコンの該当機種：COOLPIX P1000, P950等）

# 2022年3月期 通期：精機事業



## ● 売上収益：前年比 265億円増収 (前回予想比 88億円減収)

- FPD露光装置は、コロナ影響による渡航制限で遅延していた据付が順調に進み、販売台数が増加
- 顧客サイトにおける据付済み装置の高い稼働率を背景にサービスビジネスが好調に推移し、増収
- 前回予想比、減収。コロナ影響による物流混乱や渡航制限により、半導体露光装置の据付完了が翌期へ繰り延べ

## ● 営業利益：前年比 283億円増益 (前回予想比 22億円増益)

- 前年の固定資産減損や棚卸廃棄・評価損の一時費用 216億円が剥落し、前年比で大幅増益
- 前回予想比、サービス収益の改善により増益

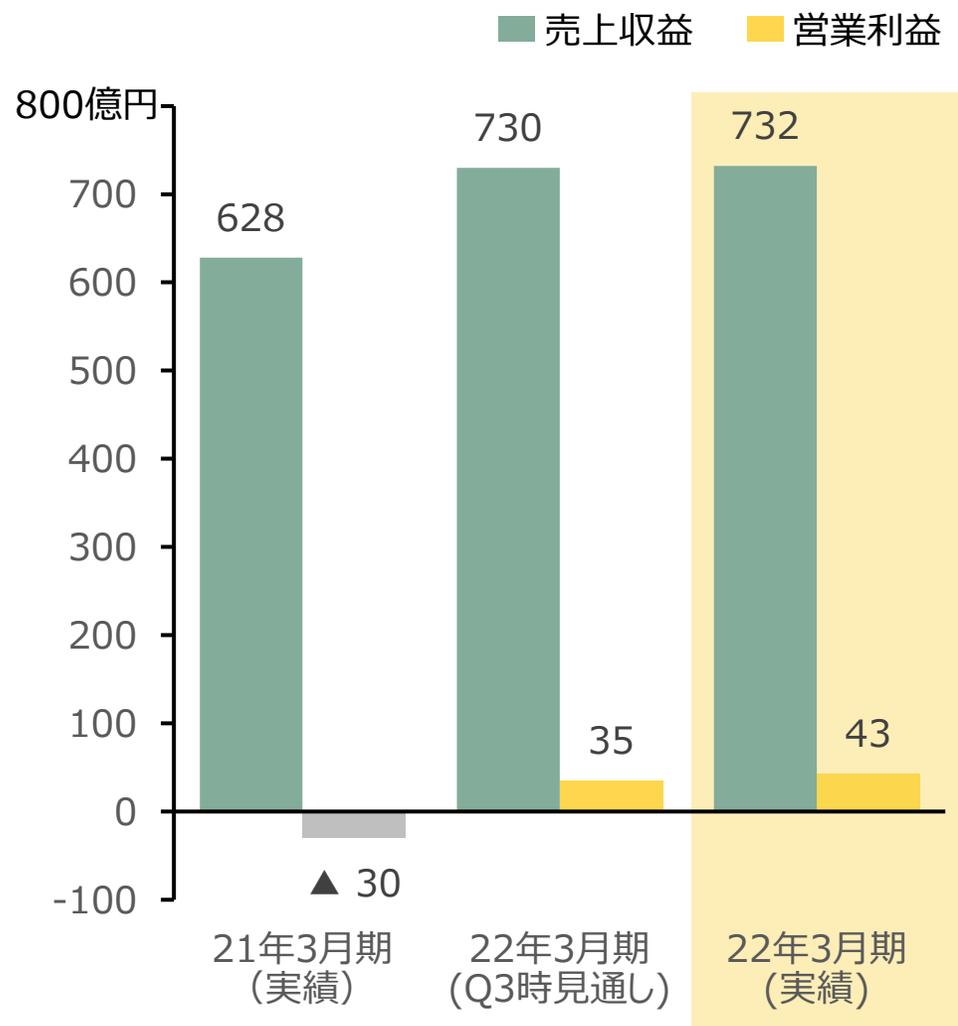
### FPD露光装置販売台数 (台)

	21年3月期 (実績)	22年3月期 (Q3時見通し)	22年3月期 (実績)
市場規模 (CY20/21)	52	120	116
ニコン	29	46	46

### 半導体露光装置販売台数 (新品/中古、台)

	21年3月期 (実績)	22年3月期 (Q3時見通し)	22年3月期 (実績)
市場規模 (CY20/21)	330	370	370
ニコン	16/11	12/20	9/18

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用



## ● 売上収益：前年比 104億円増収 (前回予想比 2億円増収)

- 生物顕微鏡は、新製品効果により、欧米を中心に増収
- 網膜画像診断機器は、北米を中心に好調に推移し、増収
- 生物顕微鏡、網膜画像診断機器、細胞受託生産の3領域全てで、過去最高の売上収益を達成

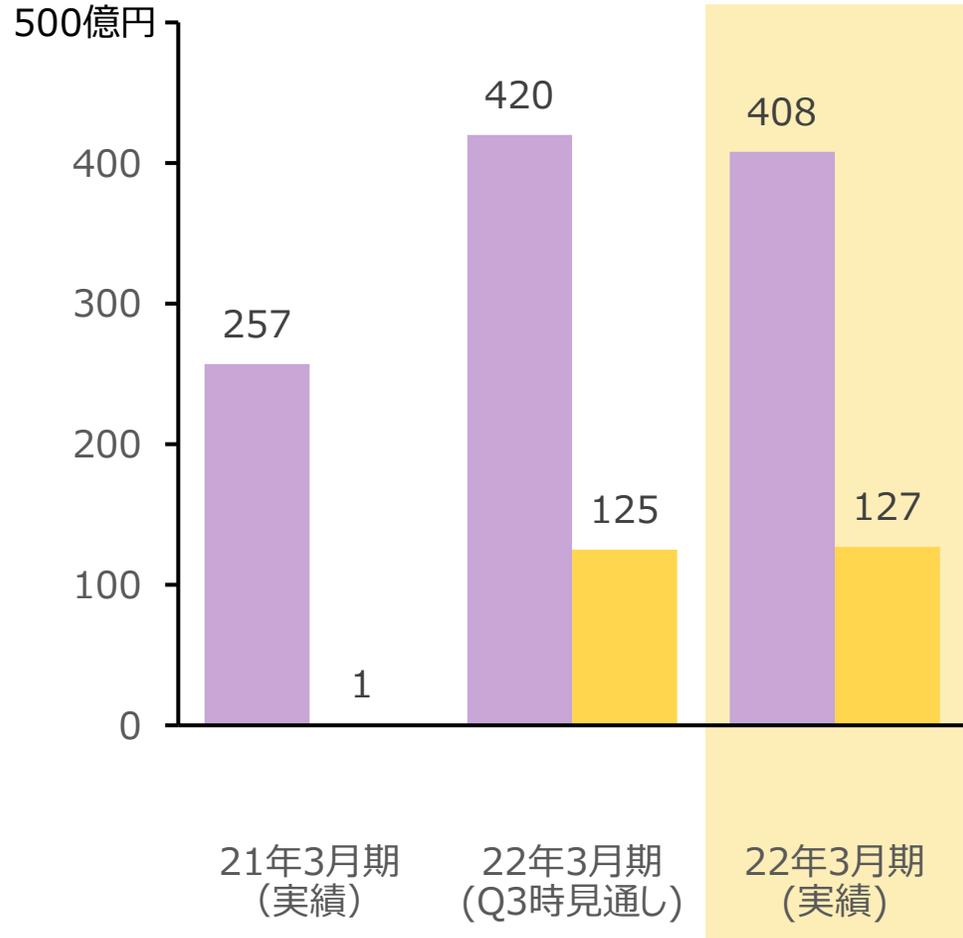
## ● 営業利益：前年比 73億円増益 (前回予想比 8億円増益)

- 増収による増益に加え、前年計上の固定資産減損25億円が剥落し、大幅増益

# 2022年3月期 通期：コンポーネント事業



■ 売上収益 ■ 営業利益



## ● 売上収益：前年比 151億円増収 (前回予想比 12億円減収)

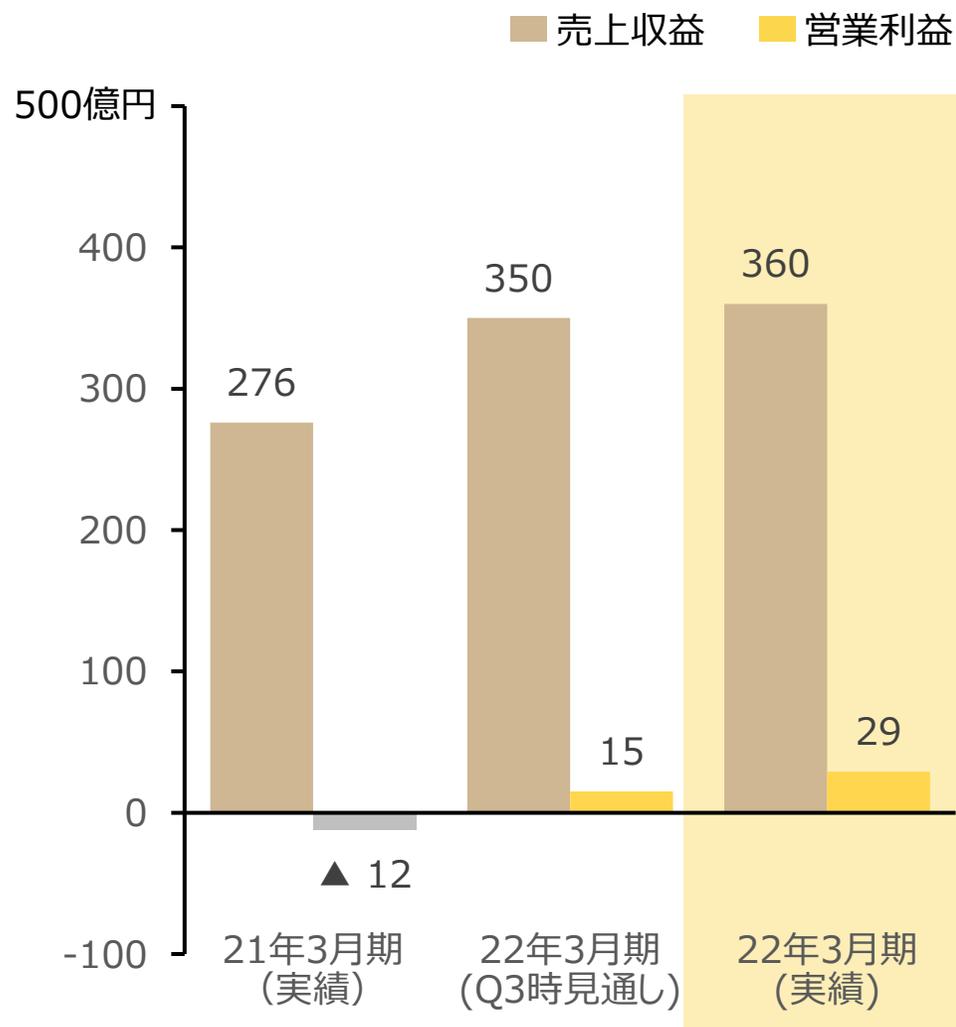
- EUV関連コンポーネント、半導体関連製品向け光学部品、光学コンポーネントやロボット向けエンコーダ、FPDフォトマスク基板等により、増収

## ● 営業利益：前年比 126億円増益 (前回予想比 2億円増益)

- 増収効果により、大幅増益

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

# 2022年3月期 通期：産業機器・その他



## ● 売上収益：前年比 84億円増収 (前回予想比 10億円増収)

- 産業機器事業では、工業用顕微鏡・画像測定システムに加え、X線検査装置、非接触測定機の販売増により、増収

## ● 営業利益：前年比 41億円増益 (前回予想比 14億円増益)

- 産業機器事業では、増収効果により、大幅増益
- 「その他」に含まれる国内生産子会社において、前年に計上した映像事業関連の減損や構造改革関連費用等の一時費用 46億円が剥落

注：2021年4月に「映像事業」「精機事業」「コンポーネント事業」に関連する一部の生産子会社を「産業機器・その他」に移管し、2021年3月期へ遡及適用

1. 2022年3月期決算報告

2. 2023年3月期 通期見通し

**売上収益**  
**6,200億円**

● **全社見通し：前年比 804億円増収**

- 6,000億円台の売上に回復、全セグメントで増収を想定
- 映像事業：ミラーレスカメラ・交換レンズの販売増や為替影響等により、318億円増
- 精機事業：半導体露光装置の販売増により、288億円増
- ヘルスケア事業：主に生物顕微鏡の販売増や為替影響等により、68億円増
- コンポーネント事業：半導体産業関連のコンポーネント等の販売増により、122億円増

**営業利益**  
**500億円**

● **全社見通し：前年並みの営業利益を見込む**

- 精機事業を除く全てのセグメントで増益を想定
- 精機事業は、FPD露光装置の販売減やサービス収益の減少により減益の見通し
- 各セグメントに配賦されない全社損益は、前年度一時利益の剥落や経営基盤強化等に伴う費用増加を見込む

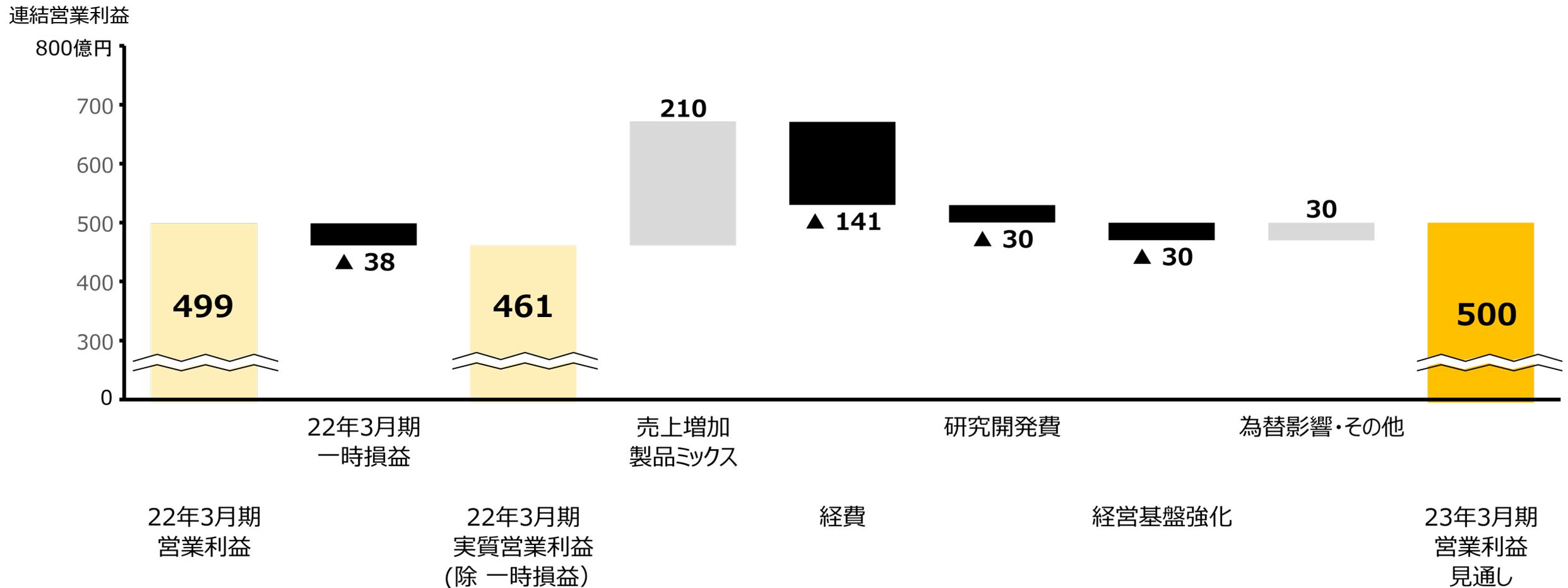
**当期利益**  
(親会社の所有者に帰属)  
**380億円**

● **全社見通し：前年比 46億円減益**

**為替前提**

● **USドル：120円、ユーロ：130円**

# 2023年3月期 通期見通し：2022年3月期実績からの営業利益の変化



前期の実質営業利益461億円に対して、増益を見込む

注：22年3月期一時損益には、土地・建物売却益 30億円、米国年金 13億円、固定資産減損 ▲5億円を含む  
 注：米国年金は、米国子会社の年金制度の変更に伴う一時的な利益を2022年3月期に計上

## 株主還元方針

- 総還元性向40%以上
- 安定配当と機動的な自己株式取得を実施

## 配当金

- 2023年3月期（予定）：年間配当金 40円（中間配当金 20円、期末配当金 20円）

## 23年3月期 自己株式取得

- 取得価格総額：300億円（上限）
- 取得株式総数：36百万株（上限）
- 取得期間：2022年5月13日～2023年3月24日
- 株式消却：2022年3月31日時点の保有自己株数 約10.5百万株の内 5百万株及び上記により取得した自己株式の全株式を2023年3月31日に消却予定

# 2023年3月期 通期見通し：連結売上収益・損益



単位：億円	22年3月期 実績	23年3月期 見通し	前年比
売上収益	5,396	<b>6,200</b>	+804
営業利益	499	<b>500</b>	+1
営業利益率	9.3%	<b>8.1%</b>	
税引前利益	570	<b>520</b>	▲50
税引前利益率	10.6%	<b>8.4%</b>	
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	426	<b>380</b>	▲46
当期利益率	7.9%	<b>6.1%</b>	
EPS	116.23円	<b>103.47円</b>	▲12.76円
年間配当	40円	<b>40円</b>	—
為替：USドル	112円	<b>120円</b>	売上収益への予想影響 (億円) +164
ユーロ	131円	<b>130円</b>	営業利益への予想影響 (億円) +32

注：EPS（基本的1株当たり当期利益）＝当期利益÷期中平均株式数（2022年3月期実績は約3.67億株で計算、2023年3月期末見通しも約3.67億株で計算）

セグメント	組織
映像事業	映像事業部
精機事業	FPD装置事業部
	半導体装置事業部
ヘルスケア事業	ヘルスケア事業部
コンポーネント事業	デジタルソリューションズ事業部
	カスタムプロダクツ事業部
	ガラス事業室
産業機器・その他	産業機器事業部
	その他
各セグメントに配賦 されない全社損益	親会社の本部部門

次世代プロジェクト本部



2022年4月より、次世代プロジェクト本部を「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管

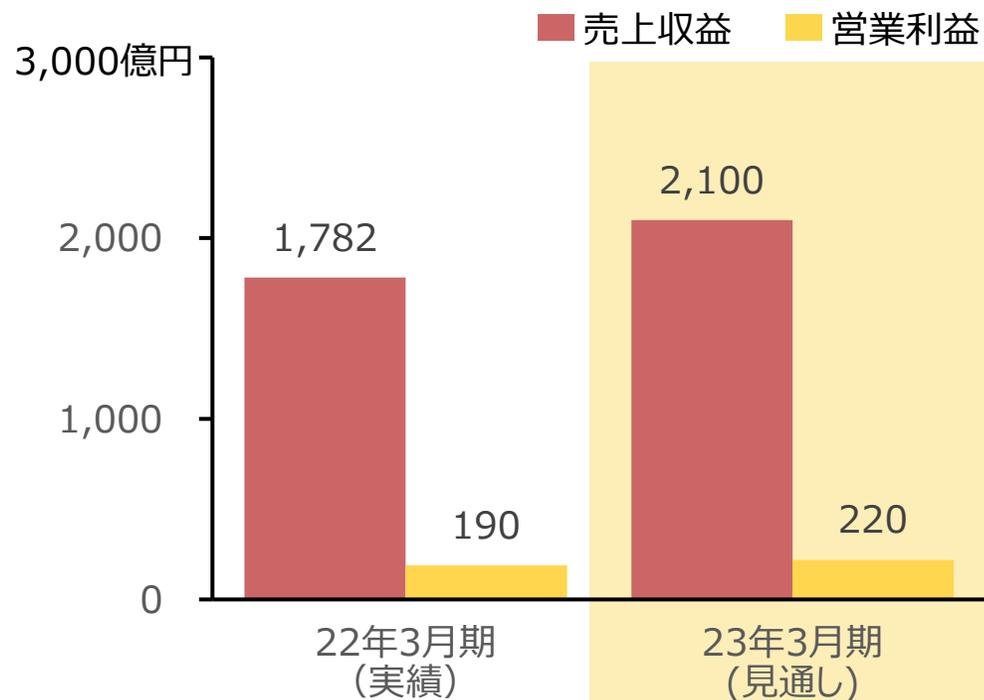
# 2023年3月期 通期見通し：セグメント別業績（新セグメント別）



単位：億円		22年3月期 実績	23年3月期 見通し	前年比
映像事業	売上収益	1,782	2,100	+17.8%
	営業利益	190	220	+30億円
精機事業	売上収益	2,112	2,400	+13.6%
	営業利益	394	350	▲44億円
ヘルスケア事業	売上収益	732	800	+9.2%
	営業利益	43	60	+17億円
コンポーネント事業	売上収益	408	530	+29.7%
	営業利益	127	170	+43億円
産業機器・その他	売上収益	360	370	+2.6%
	営業利益	29	40	+11億円
各セグメントに 配賦されない全社損益	営業利益	▲286	▲340	▲54億円
連結	売上収益	5,396	6,200	+14.9%
	営業利益	499	500	+1億円

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用。2022年3月期通期の組替額は117億円

# 2023年3月期 通期見通し：映像事業



## ● 売上収益：前年比 318億円増収

- 市場台数は、競合各社を含め製品供給ひっ迫が続き、前年並み
- 当社の販売台数は、部品調達制約により前年並み
- プロ・趣味層向け市場は堅調に推移。引き続き中高級カメラへのシフトを進め、ミラーレスカメラ・交換レンズを中心に売上拡大を目指す

## ● 営業利益：前年比 30億円増益

- 中高級機カメラの販売増、平均販売単価の向上により、増益を見込む
- 製品競争力の維持・向上を図るため、開発費用等の経費増加を見込む

### レンズ交換式デジタルカメラ (万台)

市場規模	512	510
ニコン	70	70

### 交換レンズ (万本)

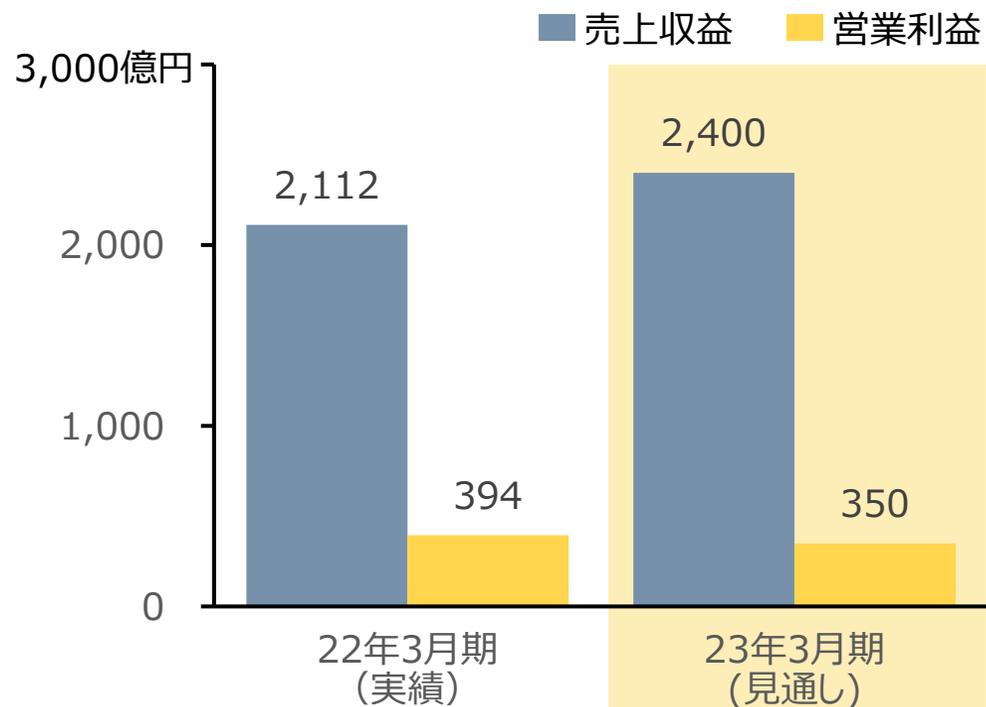
市場規模	939	940
ニコン	127	125

### レンズ一体型デジタルカメラ (万台)

市場規模	272	220
ニコン	19	10

注：レンズ一体型デジタルカメラは、ボディとレンズが一体となり、レンズ交換不可のカメラを指す（ニコンの該当機種：COOLPIX P1000, P950等）

# 2023年3月期 通期見通し：精機事業



## ● 売上収益：前年比 288億円増収

- FPD露光装置は、露光装置の台数減の影響が大きく減収
- 半導体露光装置は、顧客の堅調な需要から、ArF露光装置を中心とした新品装置の販売台数が増加し増収
- サービスビジネスは堅調に推移するも、一過性の案件を含む前年からは減収

## ● 営業利益：前年比 44億円減益

- 半導体露光装置は、サービスビジネスの減益を新品・中古号機の販売台数増により補い、増益
- FPD露光装置の販売台数減による減益を、半導体の増益で一部挽回

### FPD露光装置販売台数 (台)

	22年3月期 (実績)	23年3月期 (見通し)
市場規模 (CY21/22)	116	95

ニコン	46	31
-----	----	----

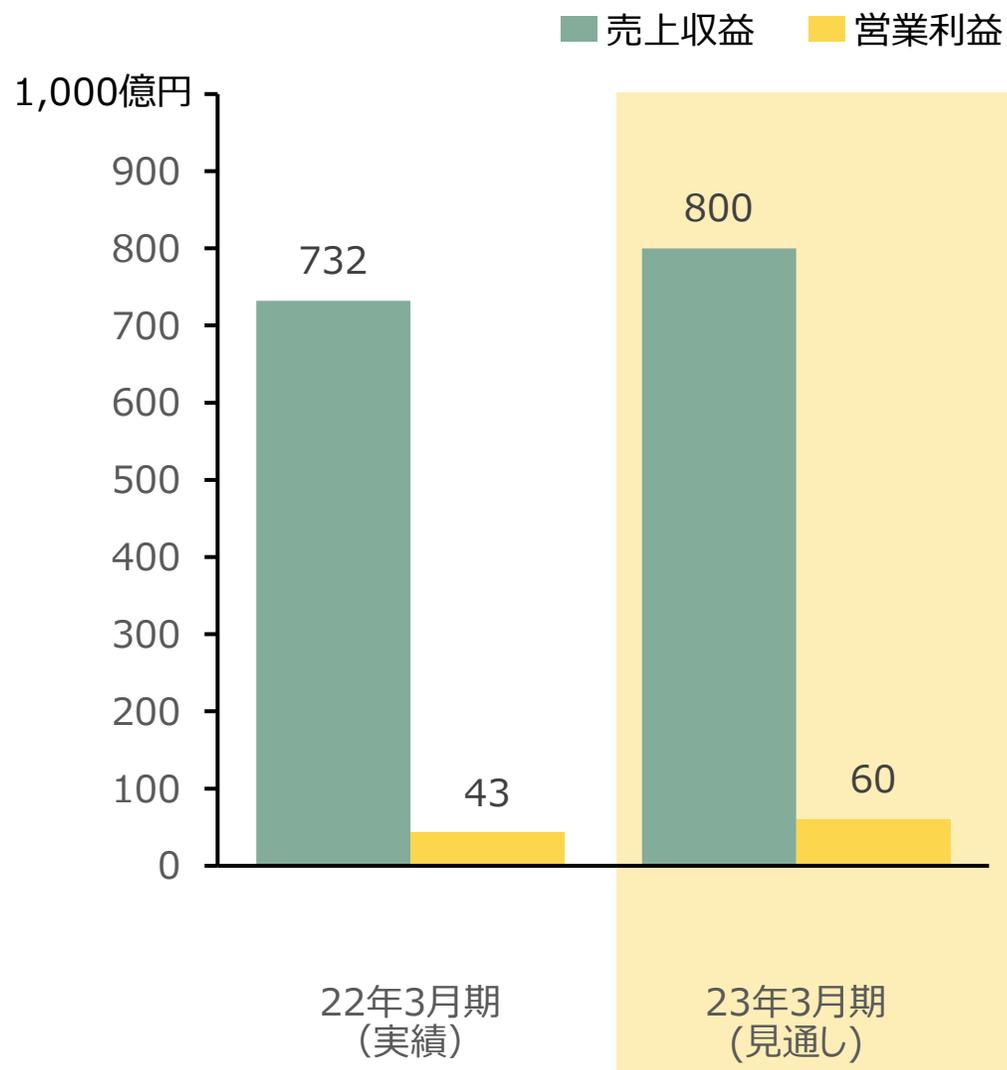
### 半導体露光装置販売台数 (新品/中古、台)

市場規模 (CY21/22)	390	460
----------------	-----	-----

ニコン	17/18	39/22
-----	-------	-------

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益」に移管、2022年3月期へ遡及適用。2022年3月期通期の組替額は117億円

注：2023年3月期より、半導体露光装置の市場全体及びニコン販売分の双方に、i線を含む非微細化領域の露光装置を含めて表記（2022年3月期分についても新しい台数の計上基準で表示）

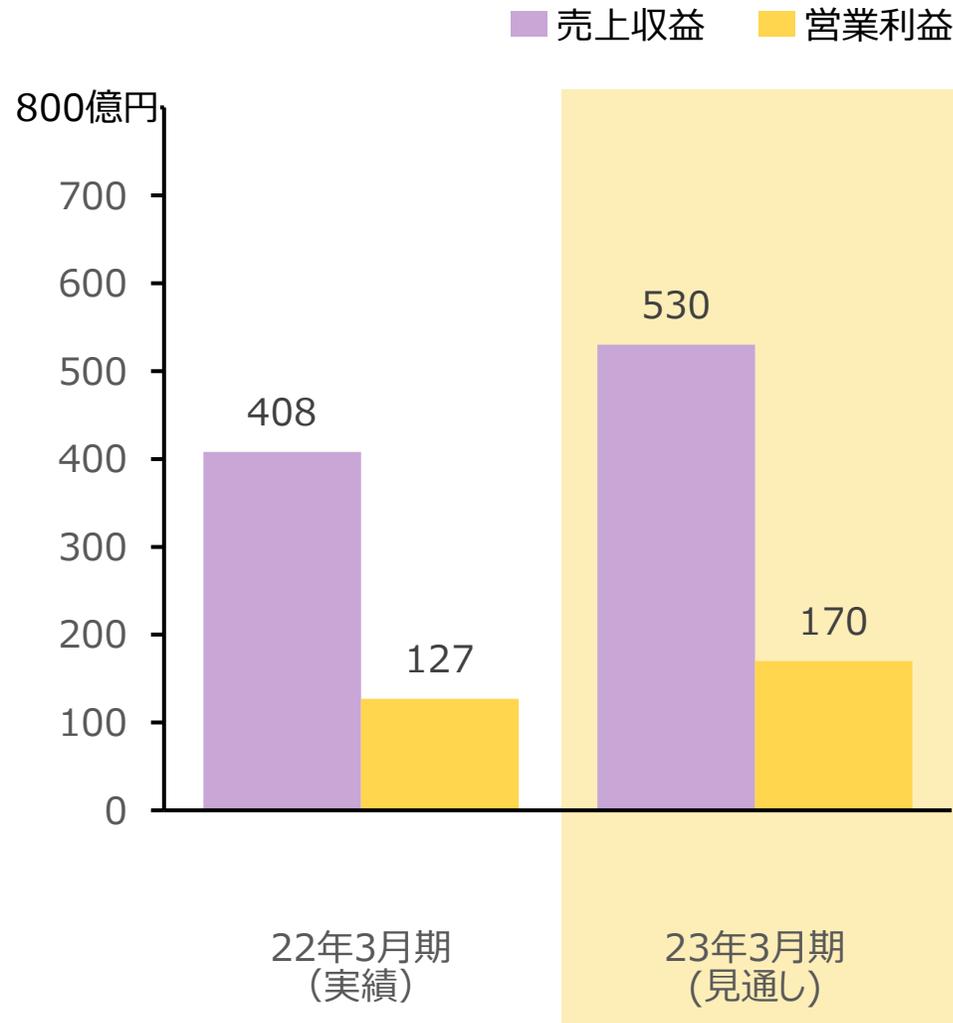


## ● 売上収益：前年比 68億円増収

- 今期も過去最高の売上を更新する見込み
- 生物顕微鏡は、北米を中心に新製品の拡販、民間市場の開拓による増収を見込む
- 網膜画像診断機器の売上は前期、売上を伸ばした北米は反動減を見込むが、欧州・アジアでの売上増により、ほぼ横ばい
- 生物顕微鏡、網膜画像診断機器共に半導体部品・物流の逼迫は継続しており、安定供給に努める

## ● 営業利益：前年比 17億円増益

- 生物顕微鏡の増収効果等により増益

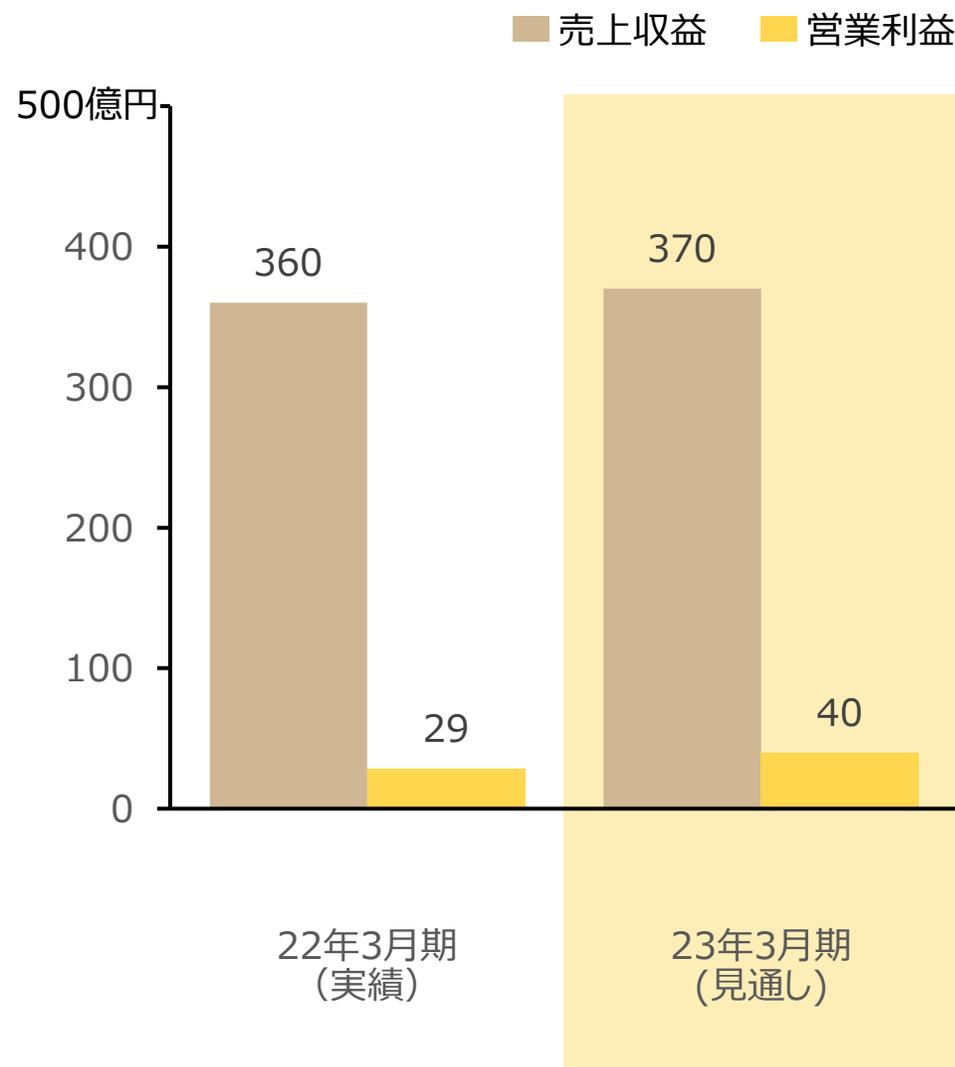


## ● 売上収益：前年比 122億円増収

- EUV関連コンポーネントや半導体関連製品の光学部品、光学コンポーネント等が売上拡大に寄与

## ● 営業利益：前年比 43億円増益

- 増収効果により増益



## ● 売上収益：前年比 10億円増収

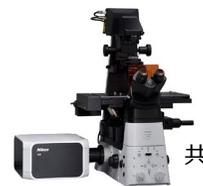
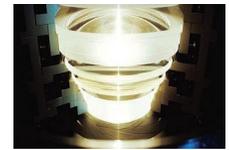
- 産業機器では、画像測定システムの堅調な販売継続に加え、X線検査装置、非接触測定機等の売上拡大を見込む

## ● 営業利益：前年比 11億円増益

- 「その他」に含まれる国内生産子会社の稼働率向上により増益
- 産業機器では、新製品の研究開発や販売体制強化のため、費用増加を見込む

# 参考資料

# ニコンの事業セグメントと主な製品

事業セグメント	主な事業、製品	製品例			
映像事業	レンズ交換式デジタルカメラ 交換レンズ レンズ一体型デジタルカメラ	 ミラーレスカメラ「Z 9」	 ミラーレスカメラ「Z fc」	 「NIKKOR」レンズ	 「NIKKOR Z 70-200mm f/2.8 VR S」
精機事業	FPD露光装置 半導体露光装置 アライメントステーション 計測・検査装置	 FPDスキャナー 「FX-103SH/S」	 ArF液浸スキャナー 「NSR-S635E」	 アライメントステーション 「Litho Booster」	 自動マクロ検査装置 「AMI-5700」
ヘルスケア事業	生物顕微鏡 網膜画像診断機器 細胞受託生産	 共焦点レーザー顕微鏡システム 「AX/AX R」	 SS-OCT付き 超広角走査型レーザー検眼鏡 「Silverstone」	 細胞受託生産	
コンポーネント事業	EUV関連コンポーネント 光学部品、光学コンポーネント エンコーダ・アクチュエータ FPDフォトマスク基板 光加工機・材料加工受託	 光学コンポーネント	 インテリジェントアクチュエータユニット 「C3 eMotion」	 FPDフォトマスク基板	 光加工機「Lasermeister 102A」
産業機器・その他	測定機 X線検査装置 工業用顕微鏡	 CNC画像測定システム 「NEXIV VMZ-S」シリーズ	 X線CT検査装置 「XT H 225 ST 2x」	 大規模空間非接触測定機 「APDIS」シリーズ	

# 2023年3月期 通期見通し：連結売上収益・損益



単位：億円	20年3月期	21年3月期	22年3月期			23年3月期		
	通期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	5,910	4,512	2,730	2,666	5,396	2,950	3,250	6,200
営業利益	67	▲562	321	178	499	230	270	500
営業利益率	1.1%	▲12.5%	11.8%	6.7%	9.3%	7.8%	8.3%	8.1%
税引前利益	118	▲453	359	211	570	240	280	520
税引前利益率	2.0%	▲10.0%	13.2%	7.9%	10.6%	8.1%	8.6%	8.4%
当期利益	76	▲344	264	162	426	170	210	380
(親会社の所有者に帰属) 当期利益率	1.3%	▲7.6%	9.7%	6.1%	7.9%	5.8%	6.5%	6.1%
EPS	19.93円	▲93.96円	116.23円			103.47円		
年間配当	40円	20円	40円			40円		
ROE	1.3%	▲6.4%	7.5%			6.5%		
FCF	▲48	229	309			-		
為替：USドル	109円	106円	110円	115円	112円	120円		
ユーロ	121円	124円	131円	130円	131円	130円		

# 2022年3月期実績・2023年3月期 通期見通し（新セグメント別）



単位：億円		22年3月期			23年3月期		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期
映像事業	売上収益	892	890	1,782	1,000	1,100	2,100
	営業利益	125	65	190	130	90	220
精機事業	売上収益	1,192	920	2,112	1,150	1,250	2,400
	営業利益	274	120	394	130	220	350
ヘルスケア事業	売上収益	330	402	732	380	420	800
	営業利益	9	34	43	30	30	60
コンポーネント事業	売上収益	167	241	408	260	270	530
	営業利益	34	93	127	80	90	170
産業機器・その他	売上収益	146	214	360	160	210	370
	営業利益	▲16	45	29	10	30	40
各セグメントに 配賦されない全社損益	営業利益	▲107	▲179	▲286	▲150	▲190	▲340
	内、成長投資関連費用	▲104	▲114	▲218	▲100	▲120	▲220
	内、本社管理部門費用	▲22	▲58	▲80	▲60	▲70	▲130
連結	売上収益	2,730	2,666	5,396	2,950	3,250	6,200
	営業利益	321	178	499	230	270	500

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益（成長投資関連費用）」に移管、2022年3月期へ遡及適用。2022年3月期通期の組替額は117億円  
 注：「成長投資関連費用」は、主に基礎研究に係る費用、新規事業創設に係る費用、ものづくり革新に関連する費用。「本社管理部門費用」は、本社機能の一般管理費、各セグメントに配賦されないその他営業損益  
 注：「各セグメントに配賦されない全社損益」は「セグメント間取引消去」を含む

# 2022年3月期 通期（新セグメント別）



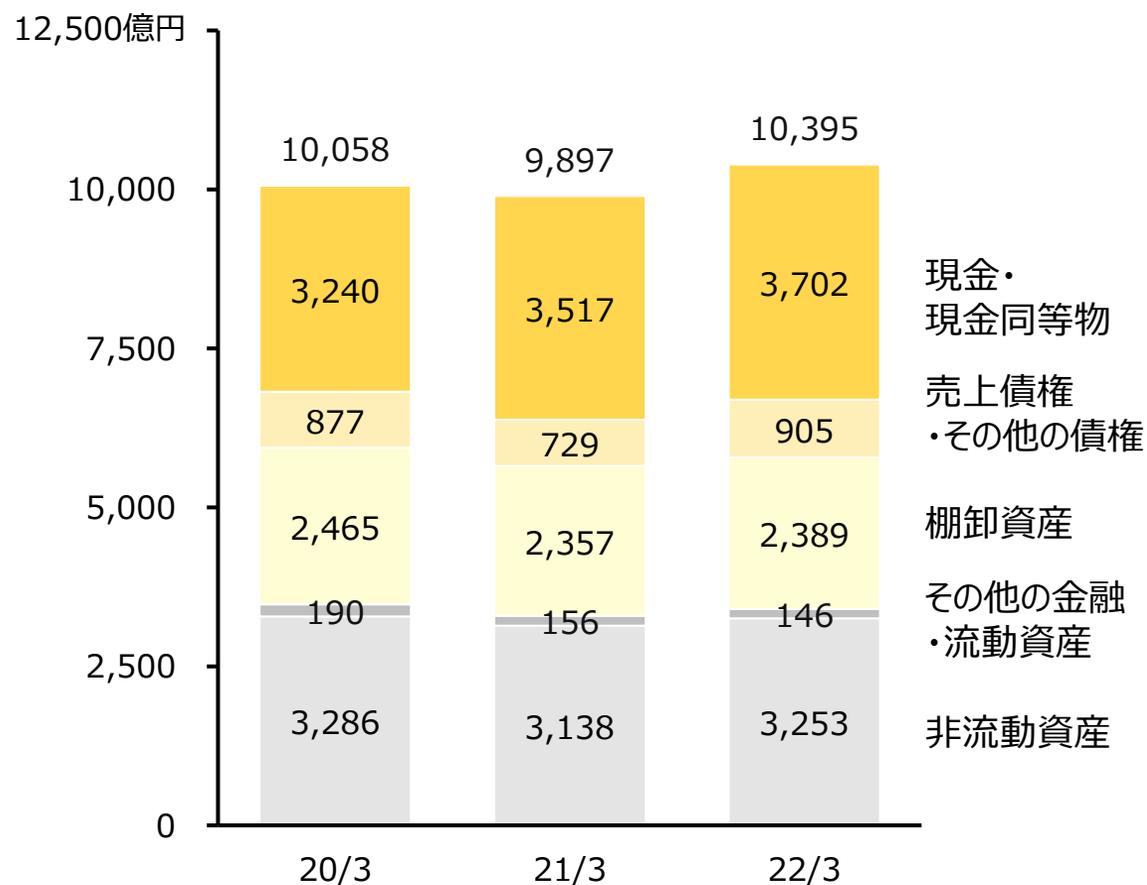
単位：億円		22年3月期				
		Q1	Q2	Q3	Q4	通期
映像事業	売上収益	500	392	468	422	1,782
	営業利益	92	33	63	2	190
精機事業	売上収益	518	674	437	483	2,112
	営業利益	133	141	58	62	394
ヘルスケア事業	売上収益	158	172	202	200	732
	営業利益	4	5	19	15	43
コンポーネント事業	売上収益	77	90	139	102	408
	営業利益	21	13	67	26	127
産業機器・その他	売上収益	67	79	89	125	360
	営業利益	▲10	▲6	17	28	29
各セグメントに 配賦されない全社損益	営業利益	▲43	▲64	▲76	▲103	▲286
	内、成長投資関連費用	▲50	▲54	▲53	▲61	▲218
	内、本社管理部門費用	1	▲23	▲27	▲31	▲80
連結	売上収益	1,322	1,408	1,333	1,333	5,396
	営業利益	199	122	148	30	499

注：2023年3月期より「次世代プロジェクト本部」は、「精機事業」から「各セグメントに配賦されない全社損益（成長投資関連費用）」に移管、2022年3月期へ遡及適用。2022年3月期通期の組替額は117億円  
 注：「成長投資関連費用」は、主に基礎研究に係る費用、新規事業創設に係る費用、ものづくり革新に関連する費用。「本社管理部門費用」は、本社機能の一般管理費、各セグメントに配賦されないその他営業損益  
 注：「各セグメントに配賦されない全社損益」は「セグメント間取引消去」を含む

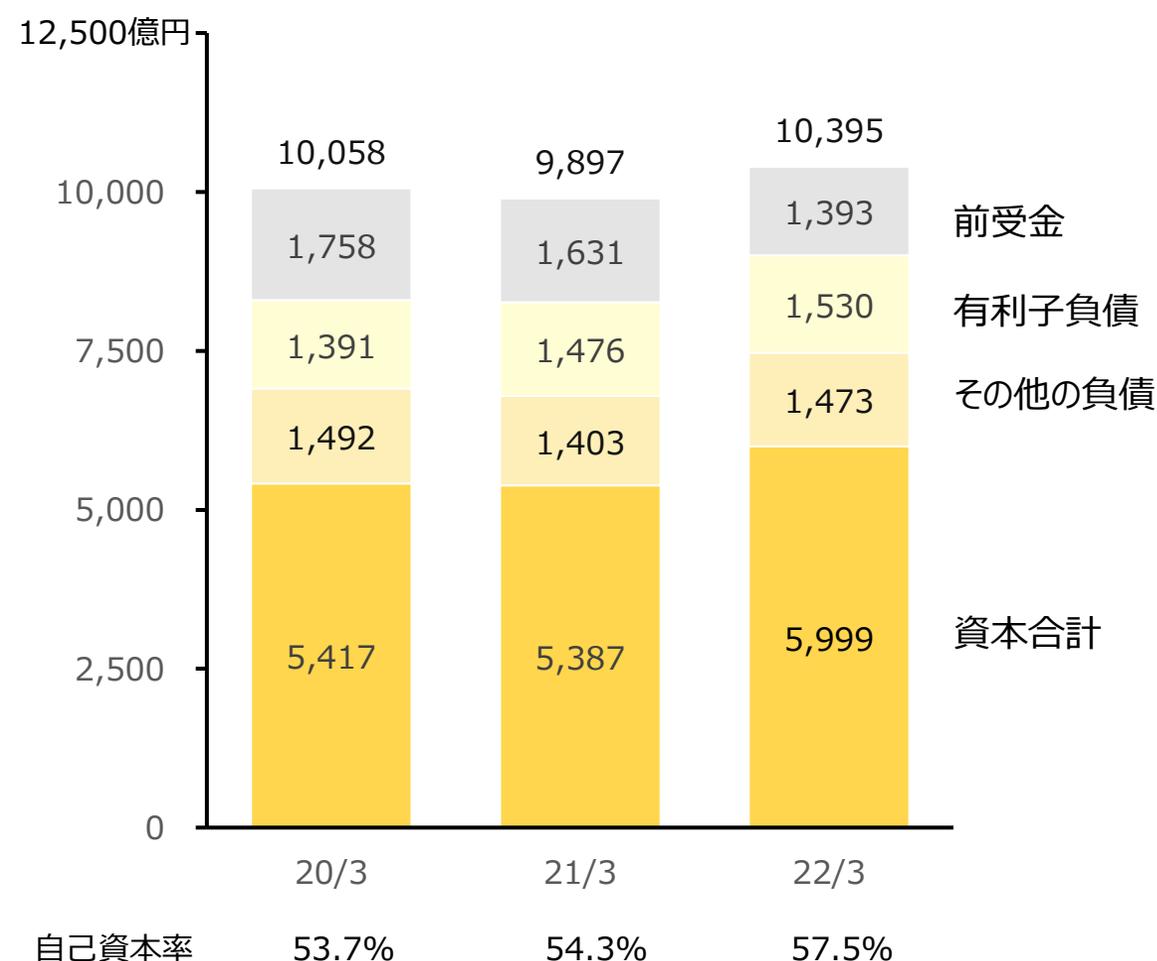
# 2022年3月期 通期：財政状態計算書



## 資産

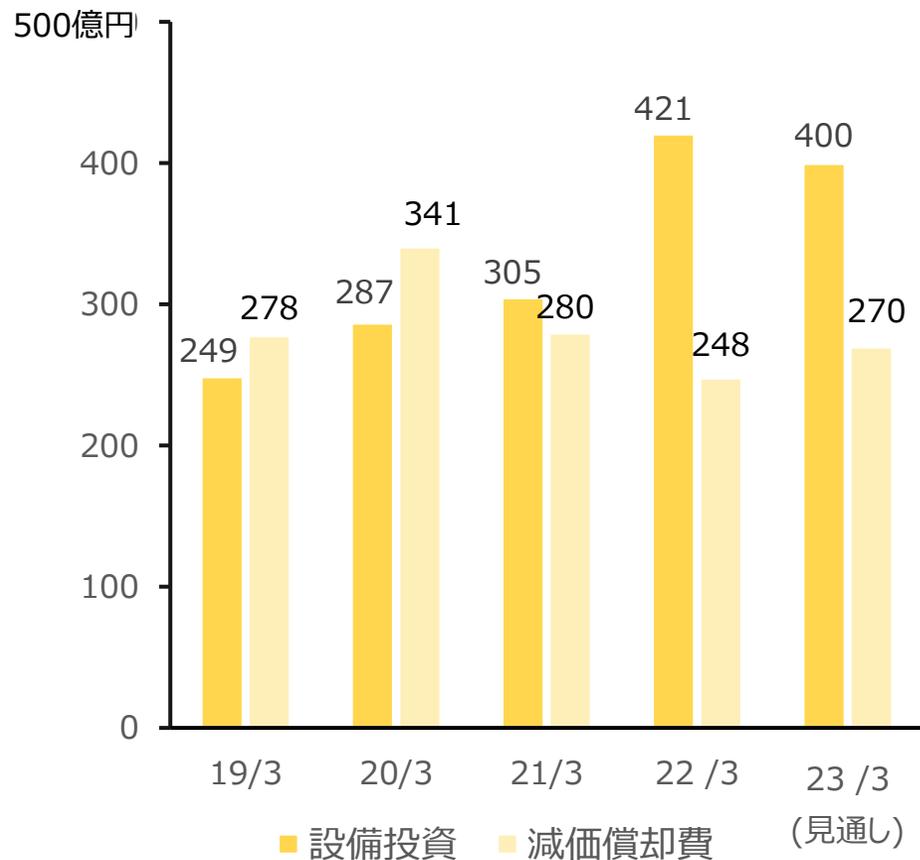


## 負債・資本

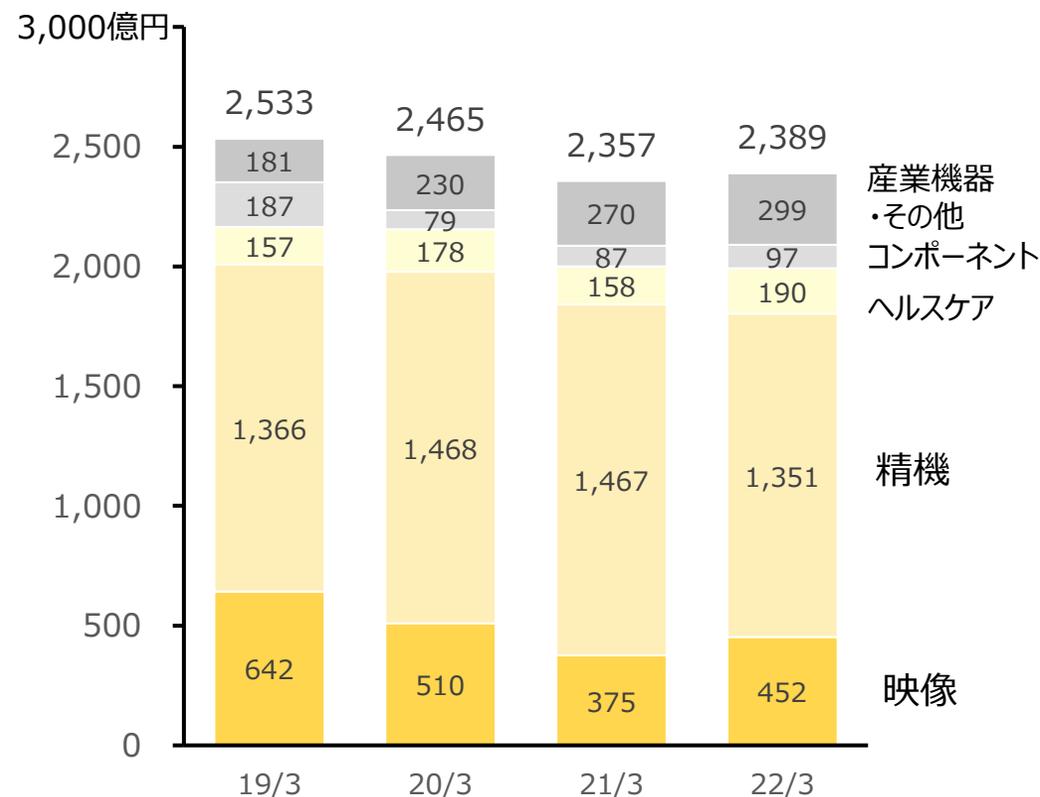


注：自己資本比率 = 親会社所有者帰属持分比率。現金・現金同等物には3ヶ月超の定期預金残高を含めず表示

## 設備投資・減価償却費

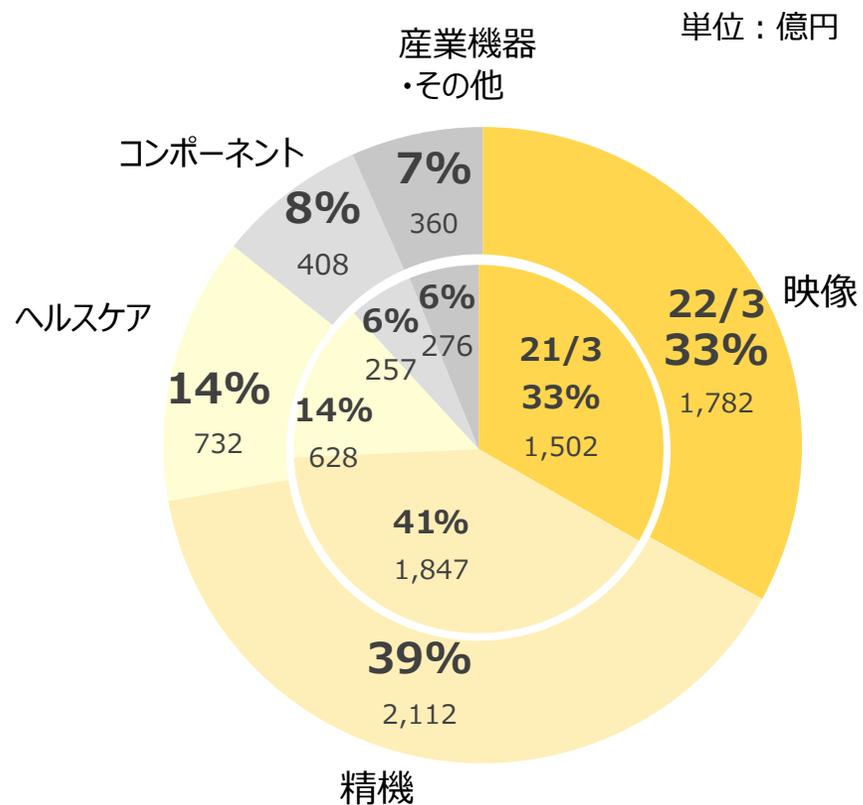


## 棚卸資産

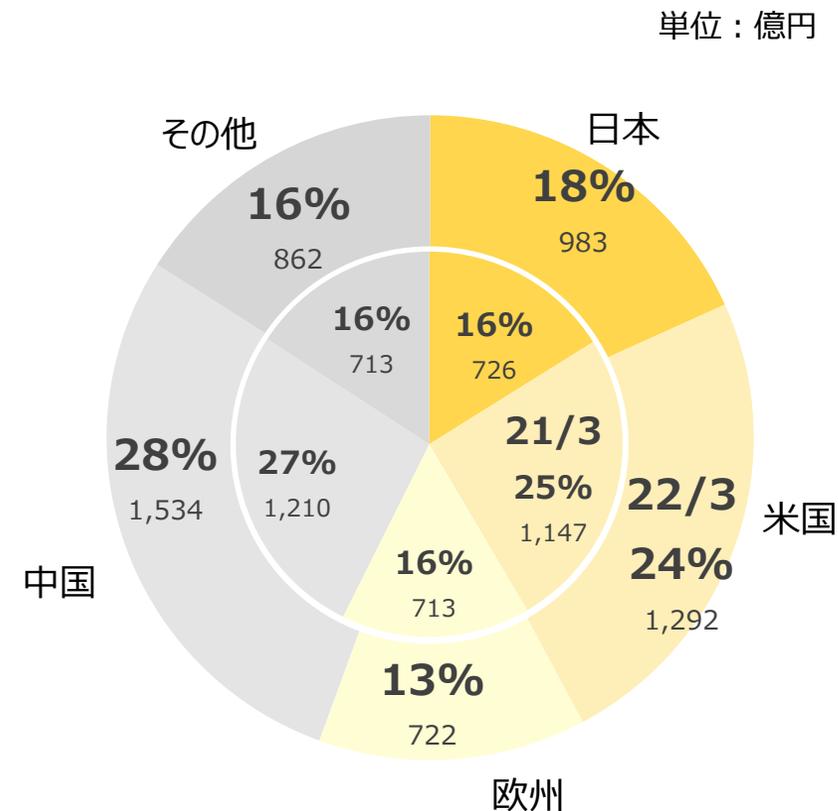


注: 「設備投資」 2020年3月期以降はIFRS第16号適用により使用権資産を含めて表示  
 「減価償却費」 2020年3月期以降は設備投資と同様に使用権資産の償却も含めて表示  
 「棚卸資産」 産業機器・その他に属していた半導体関連製品事業を精機事業に移管。2020年3月期へ遡及適用し、2020年3月末で26億円の残高を組替

## セグメント別内訳

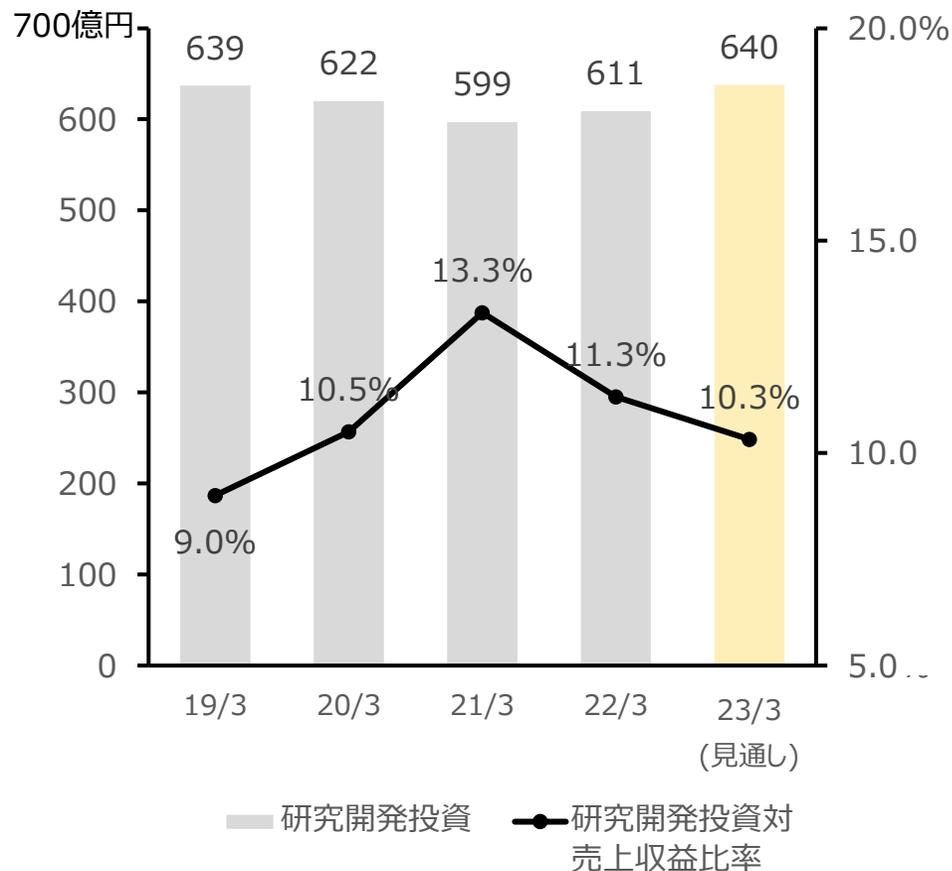


## 地域別内訳



注：外円は「2022年3月期 通期売上収益5,396億円」の内訳、内円は「2021年3月期 通期売上収益4,512億円」の内訳を表示

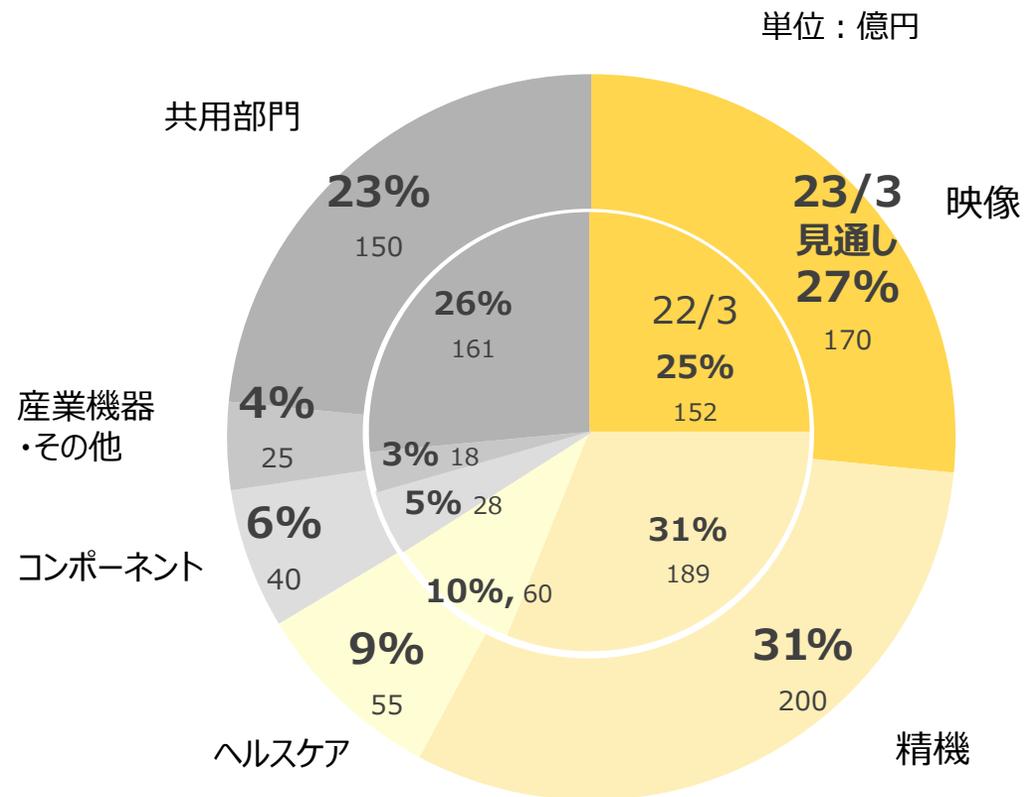
## 研究開発投資



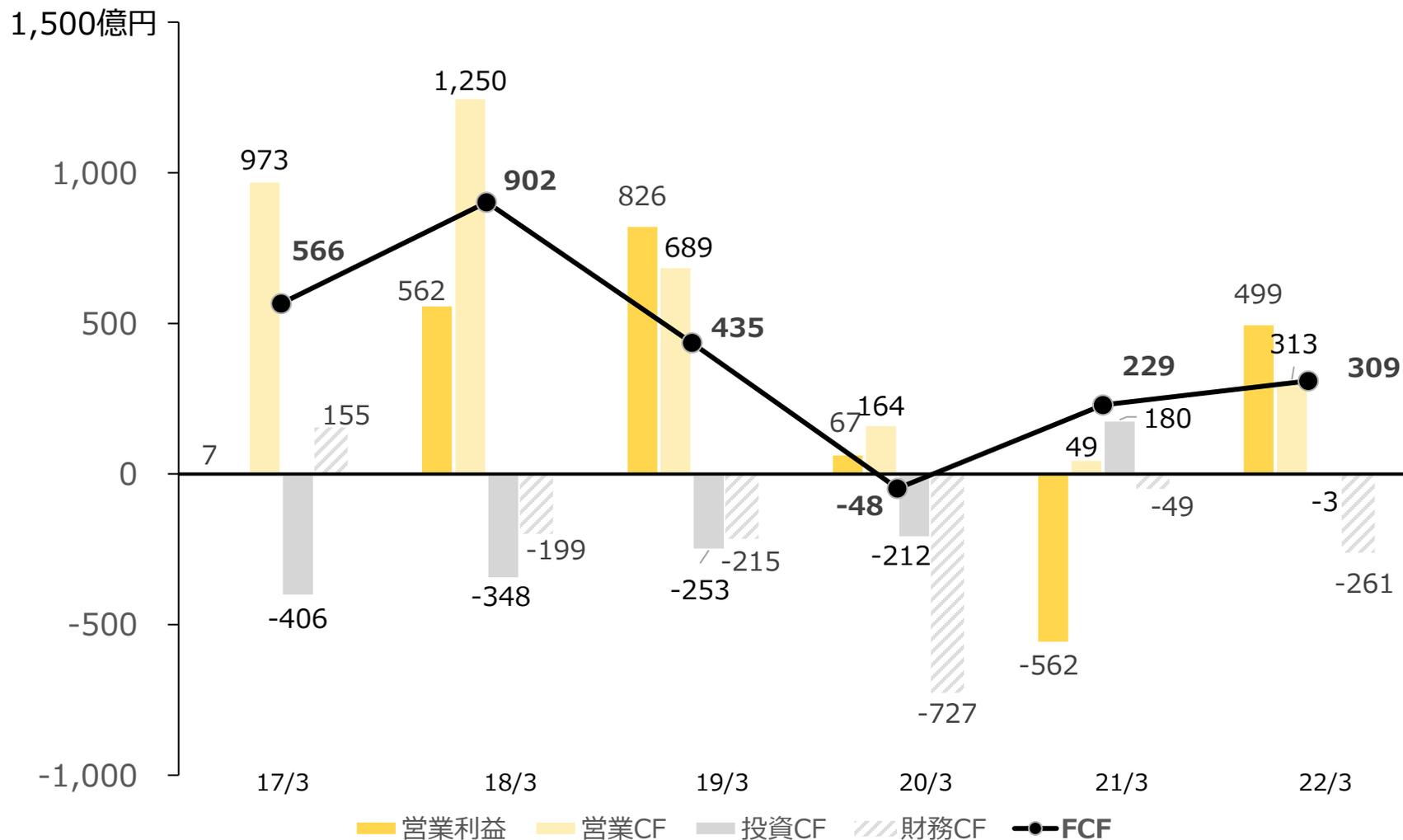
注：「研究開発投資」には、資産化された開発投資を含めて表示

注：「研究開発投資内訳」は、2023年3月期からのセグメント変更に伴い、2022年3月期の財務数値を変更後の表示に合わせ、組み替えて表示

## 研究開発投資内訳

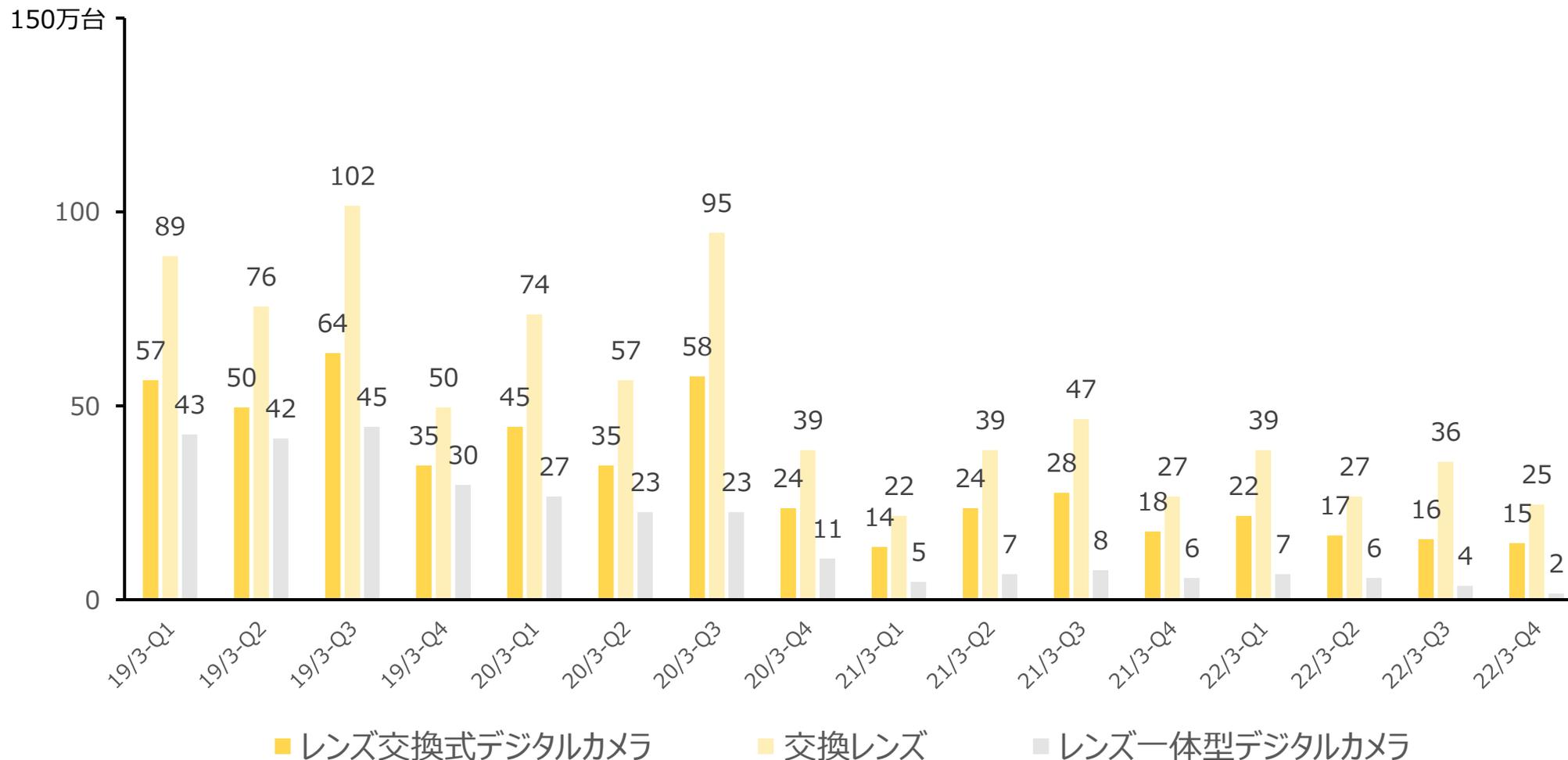


# キャッシュフロー推移



注: FCF + 財務CF + 現金・現金同等物に係る換算差額 = 現金・現預金同等物期末残高増減

## 製品カテゴリー別内訳

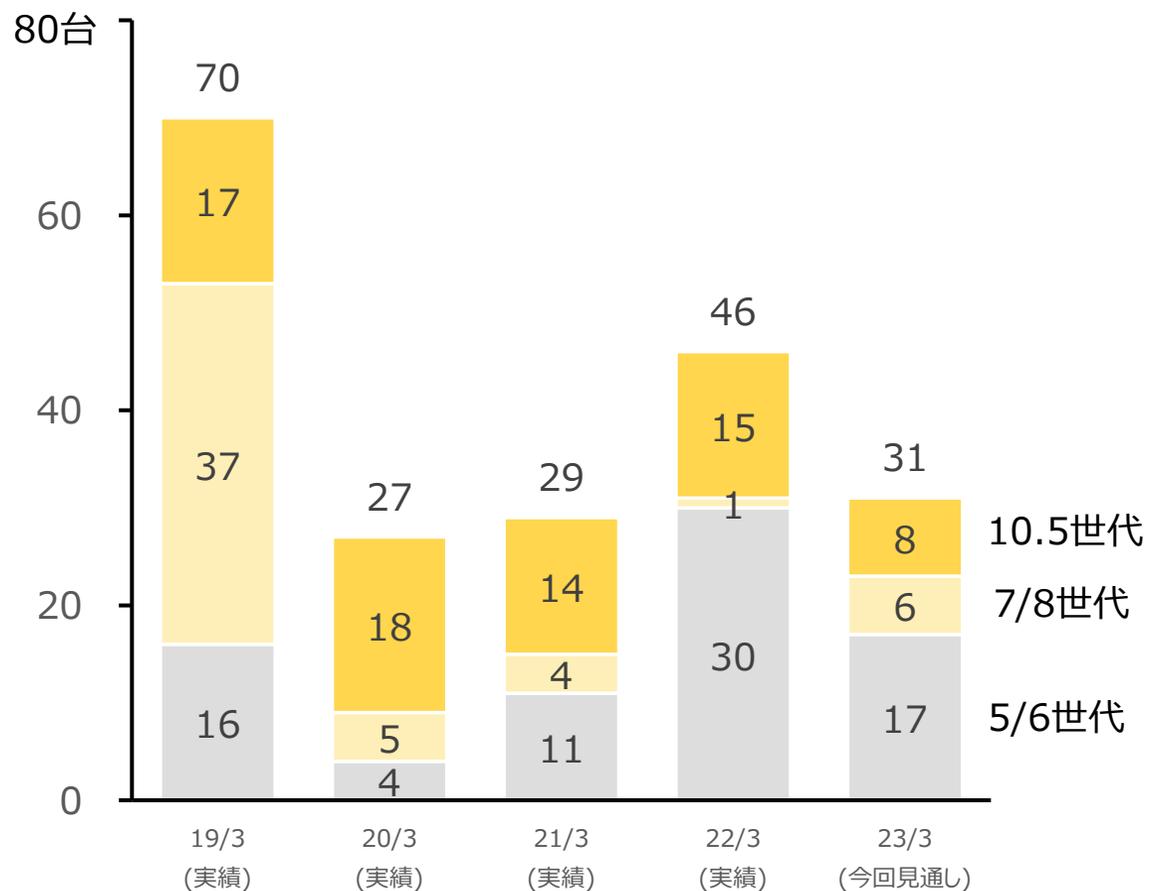


注: レンズ一体型デジタルカメラは、ボディとレンズが一体となり、レンズ交換不可のカメラを指す（ニコンの該当機種：COOLPIX P1000, P950等）

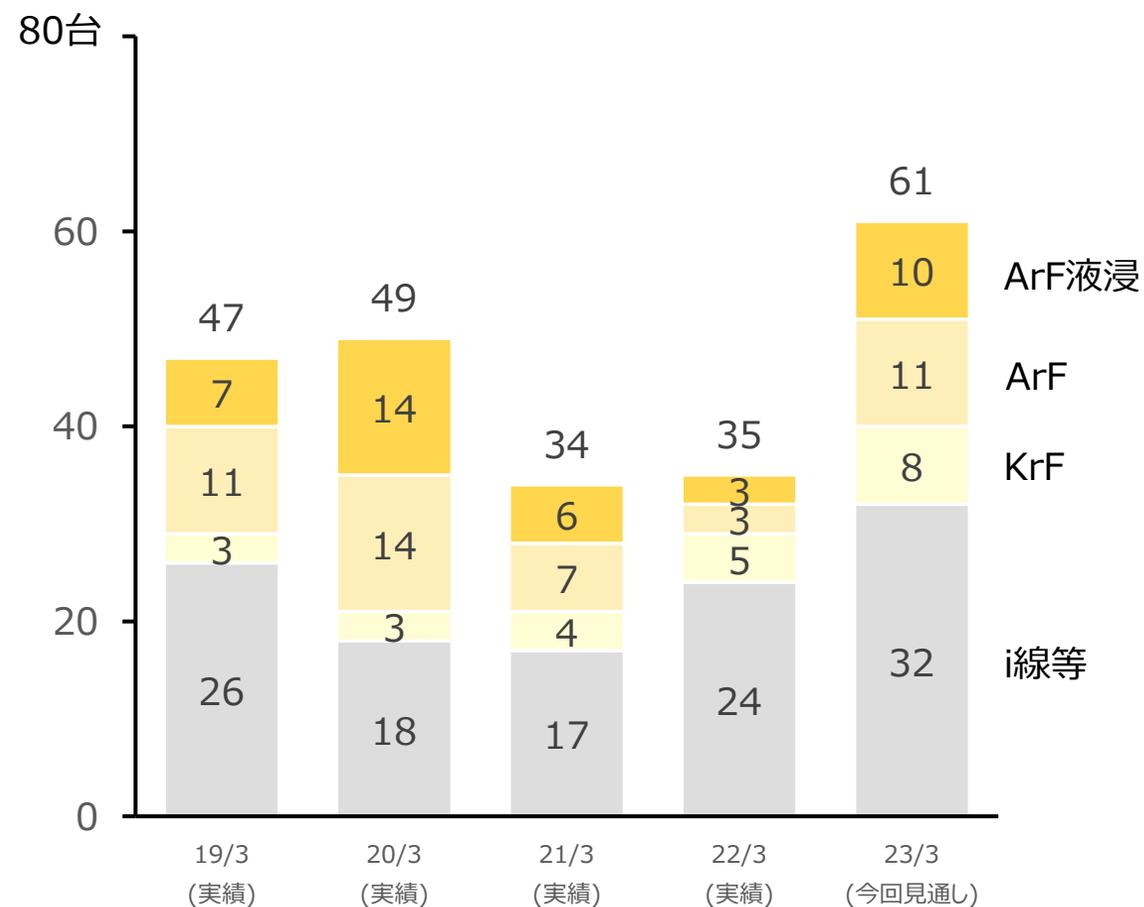
# 2023年3月期 通期見通し：精機事業 販売台数



## FPD露光装置世代別内訳

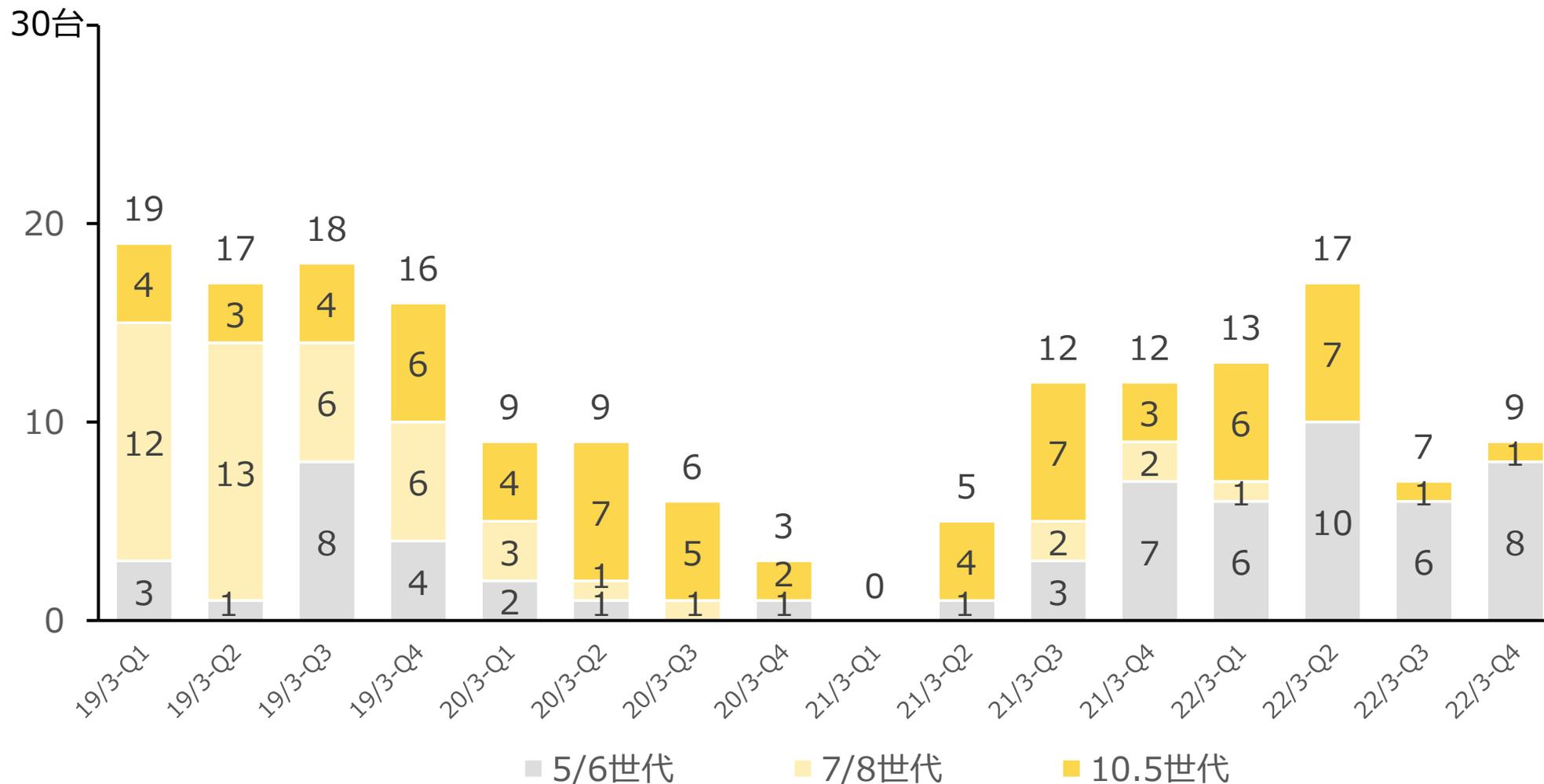


## 半導体露光装置光源別内訳 (中古含む)

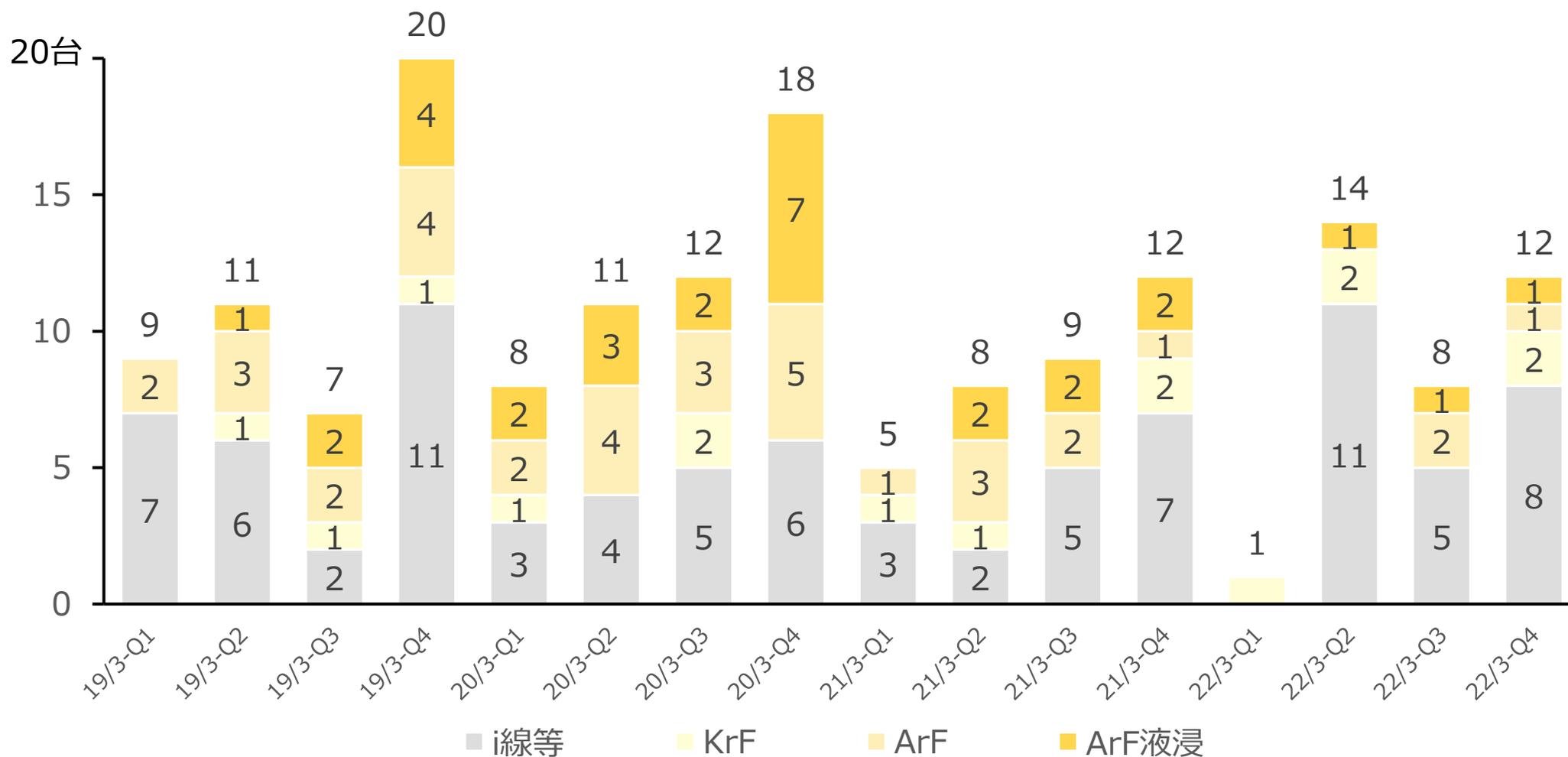


注：半導体露光装置台数の「i線」には、i線を含む非微細化領域の露光装置（ミニステッパー）を含む（2019年3月期以降についても新しい台数の計上基準で表示）  
 注：半導体露光装置の新品の台数は、2019年3月期は27台、2020年3月期は38台、2021年3月期は23台、2022年3月期は17台、2023年3月期は39台（予定）

## FPD露光装置世代別内訳



## 半導体露光装置光源別内訳 (中古含む)



注：半導体露光装置台数の「i線等」には、i線を含む非微細化領域の露光装置（ミニステッパー）を含む（2019年3月期以降についても新しい台数の計上基準で表示）

# 2023年3月期 通期見通し：為替の影響

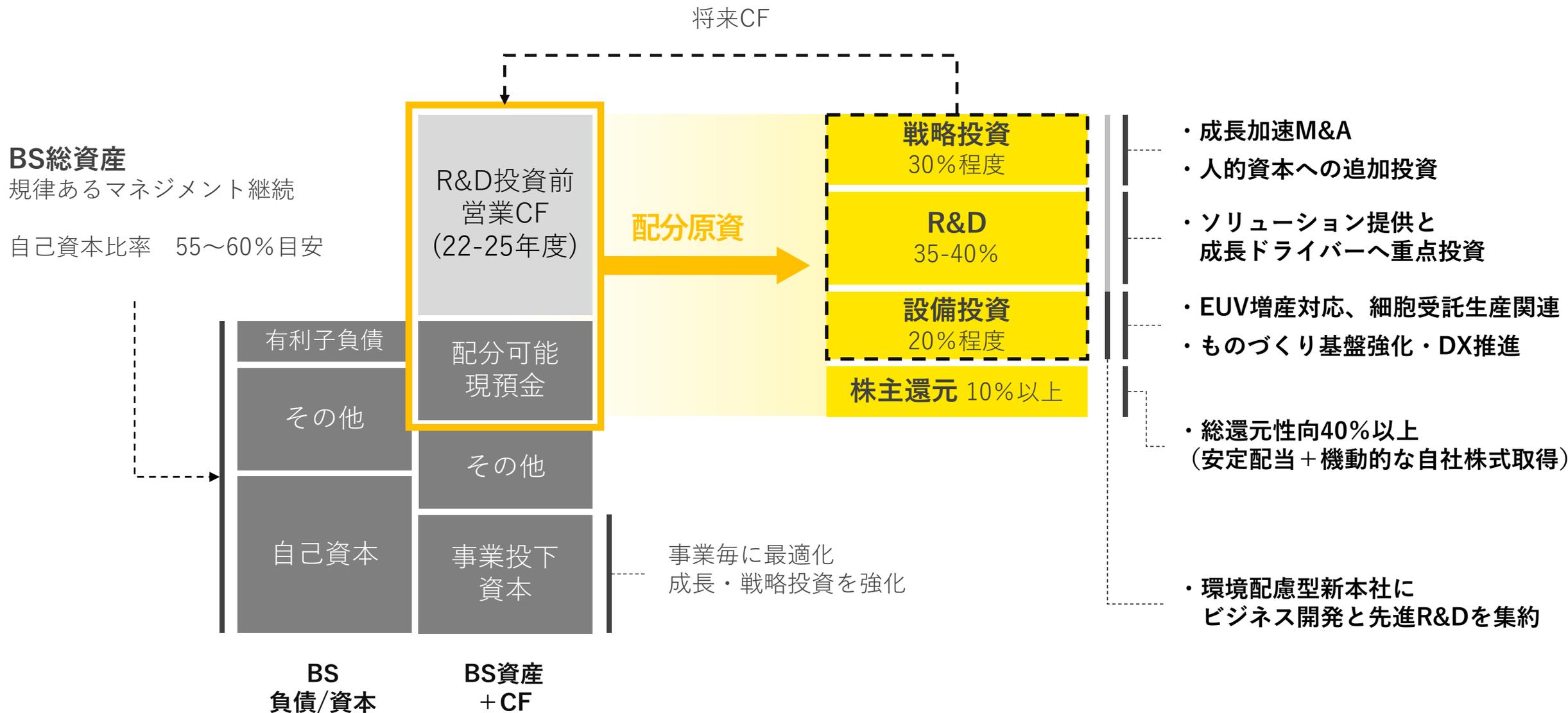


	為替レート	1円の変動による影響額	
	23年3月期 前提	売上収益	営業利益
USドル	120円	約22億円	約4億円
ユーロ	130円	約6億円	約3億円

注：上記は新興国通貨がUSドル、ユーロに連動することを想定

# 資本配分 | 持続的成長に向けた投資を強化、安定的な株主還元実現

2022年4月発表  
『中期経営計画(2022~2025年度)』  
より再掲



- 本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスクおよび不確実性が含まれます。このため、今後様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく異なる場合があることをご承知おきください

